

Takema Class Presents
特別公開講義

- このアジアで共に生きる -

ビルマ民主化運動のいま



① 「難民キャンプからの画像レポート」

講師 竹間優美子 立命館大学・関西外国語大学講師(非)

② 「ビルマは今」

講師 ココラット氏 SCDB(ビルマ民主化支援会)代表

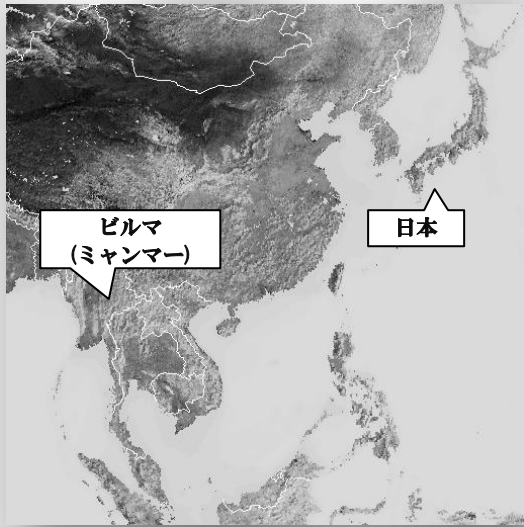
日時 7月11日(土) 13:40 -

場所 立命館大学衣笠キャンパス・明学館94号教室

同時に、ビルマ(ミャンマー)の写真展・メラウー難民キャンプのカレン族手作りの物品展示・チャリティー販売などがあります。お誘いあわせのうえ、ご来場ください。

資料代 [学生 ¥200 / 一般 ¥500]

-このアジアで共に生きる- ビルマ民主化運動の今



2007年、日本人ジャーナリスト長井健司氏が、ビルマ(ミャンマー)での市民や僧侶らによる反政府デモを取材中に銃撃され、死亡した。また、一時は京都大学にも籍をおいていた非暴力・民主化運動のリーダー、アウンサンスーチーさんも、健康状態が心配されるなか、長年軟禁状態におかれ、かつ非合法的な裁判にかけられている。国内に政治犯として捕らえられている人々は、現在でも2,400名以上。また、三十万人以上もの人々が、ビルマとタイの国境を越えて難民となっている。

今、ビルマで何がおこっているのか。

軍政府から返却されないままの長井氏の最期のフィルムは、いったい何を私たちに伝えたかったのか…。戦後の非戦文学の名作『ビルマの豎琴』などでも知られたビルマは、皮肉にも、現在、軍事政権のもとにあり、その政権に、日本政府は多額の経済援助などを与えてきた。

ODA

もし、私たちの多額の税金や郵便貯金などの資金が(政府開発援助)としてビルマの軍事政権を支え、また、その援助でつくられたダム発電などの施設で、カレンやカレニ、モンなどのビルマの少数民族の人々が強制労働を強いられ、弾圧、拷問、強姦、児童労働のもとにさらされ、埋められた地雷におびえながら暮らしているとしたら、それでも、私たちは、ビルマのことを、どこか遠くのアジアのことと思えるのだろうか。

今回の公開講義は、ゲスト講師にココラット氏をお迎えし、ビルマの現実を生む声で書き、私たちが生きる、この**アジア**と、**民主主義**、こどもたちの**教育**の大切さについて、共に学び考える時間をもちたいと思う。



今回は、一月に訪れたタイ/ビルマ国境地域のメラウー難民キャンプのようすなど、パワーポイントで多くの写真を紹介しながらのレクチャーです。生き生きとした子供たちのようすや、難民キャンプの子供たちの希望を教育にたくし、その教育をまさに命がけで支えている大人たちの懸命の戦いを伝えていきたいと思っています。多くのおみなさんの参加をお待ちしております。(Takema)



ココラット氏

1988年からビルマの民主化運動に加わる。元全ビルマ高校学生連盟の書記長。1990年の総選挙の日、反政府活動を理由に逮捕された。釈放後も監視下に置かれたため、1991年タイ経由で日本へ逃れ、ビルマの民主化運動を続ける。2001年に政治難民に認定。現在、SCDB(ビルマ民主化支援会)代表として各地で講演や民主化運動を続けている。

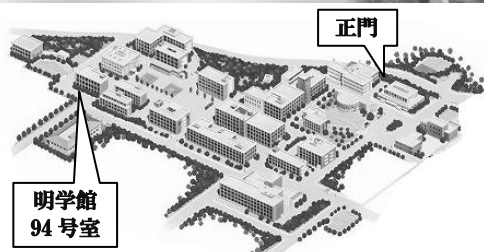


難民キャンプの、竹と木の葉でできた教室。きらきらした瞳が、いっせいにこっちをみつめています。大人たちの教育への必死の熱い思いに支えられた、子供たちの輝く希望です。



難民キャンプで生まれ育つこどもたち。この子たちが祖国ビルマに帰れる日はくるのだろうか。

日時 7月11日(土) 13:40-16:50
場所 立命館大学衣笠キャンパス
明学館 94号室



JR・近鉄・京都駅 ⇨ 市バス50・快速205
阪急西院 ⇨ 市バス快速202・快速205
京阪三条駅 ⇨ 市バス15・59